

清里フォトアートミュージアム(K・MoPA) 写真の保存と収蔵環境について

清里フォトアートミュージアム(K・MoPA)は、主に1900年以降の写真作品(プリントのみ)を収蔵・展示の対象としています。毎年若手作家から作品を購入し、館の永久コレクションとする「ヤング・ポートフォリオ」など、従来の写真美術館にはない画期的な試みを行っています。プリント写真はもっとも脆弱な紙資料の一つと言われています。今回は、学芸員の田村泰男氏をたずね、写真の保存と収蔵環境について伺いました。

- Menu
1. 清里フォトアートミュージアムについて
  2. 写真の収蔵環境
  3. 応募から始まる作品の保存～ヤング・ポートフォリオ

|   |  |
|---|--|
|   | <p><b>清里フォトアートミュージアム(K・MoPA)</b></p> <p>1995(平成7)年7月 開館。</p> <p>「生命あるものへの共感」「永遠のプラチナ・プリント」「若い力の写真：ヤング・ポートフォリオ」という3つの基本理念をもとに作品を蒐集。年に2～3回企画展を開催。展覧会にあわせ、プラチナ・プリント、ピンホールカメラなどのワークショップを行う。</p> <p>住所：〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545<br/>URL：<a href="http://www.kmopa.com/">http://www.kmopa.com/</a></p> |
|  | <p><b>田村泰男 (Tamura Yasuo)</b></p> <p>清里フォトアートミュージアム 学芸員</p> <p>1950年、福島県生まれ。</p> <p>日本大学芸術学部写真学科卒業。</p> <p>在学中より写真家・細江英公氏に師事(72～77年)。写大ギャラリー展示担当(75～95年)、日本工学院専門学校映像科(現マルチメディアアート科)非常勤講師(80～02年)など。1984年より、NHK杯囲碁トーナメントを撮影。</p> <p>1995年より清里フォトアートミュージアム学芸員となる。</p>                                |

## 清里フォトアートミュージアム(K・MoPA) 1/3 清里フォトアートミュージアムについて

清里フォトアートミュージアム(以下 K・MoPA と記載。読みはケイモパ)は1995年に開館しました。従来の写真美術館にない役割を担おうと、「生命(いのち)あるものへの共感」をメインテーマに、主に1900年以降の写真作品を蒐集・展示・保存しています。今回は、K・MoPAの学芸員・田村泰男氏に写真の保存と収蔵環境について伺いました。

### プリントへのこだわり

まず、コレクションの範囲をプリント作品に絞っている理由をたずねました。

当館では、ヴィンテージ・プリントにこだわっています。これは、館長である細江英公の考えです。写真家が自らプリントし最終形態まで仕上げたものには、作者としての思いがこもっており、時を経てオーラを持つ、と。私たちは、作品が持っている空気を購入時のまま、伝えるよう努めています。作品の長期保存は、重要な課題のひとつです。

### K・MoPAの基本理念とコレクション

K・MoPAには3つの基本理念があります。

「生命(いのち)あるものへの共感」「永遠のプラチナ・プリント」「若い力の写真：ヤング・ポートフォリオ」です。

「生命(いのち)あるものへの共感」というメインテーマのもとに当館のコレクションは7900点以上になります。そのうち、ゼラチン・シルバー・プリント(銀塩写真)、ダイトランスファーなどの1900年以降の作品が約3200点。

「プラチナ・プリント」とは、白金(プラチナ)を用いて焼き付けたものです。黒のしまりがよく、白から黒までのグラデーションの幅が広く、色調が非常に美しいのです。また、白金は化学的に安定しているため耐久性に優れています。当館では、プラチナ・プリントの古典および現代作品の収集と技法の継承を基本理念に掲げ、約500点所蔵しています。

「ヤング・ポートフォリオ」は、35歳以下の写真家を対象に作品を全世界から公募し、K・MoPAの永久コレクションとして購入することで若い力の支援をする、という世界でも例のない企画です。購入作品数は年間約300点で、現在約4000点になります。



細江英公「おとこと女 #20」  
1960年 (C) HOSOE Eikoh

### プラチナ・プリント



ピーター・ヘンリー・エマーソン  
「ノーフォーク湖沼の生活と風景」より  
1886年

### ヤング・ポートフォリオ



全 敏洙(韓国、1975~)  
[Image Korea] 2003年  
(C) Jun Min Soo  
画像の無断転載を禁じます。

## K・MoPA の活動

K・MoPA では、常設展は行わず年に 2 回または 3 回の企画展を行っています。そのうち 1 回は、毎年開催されるヤング・ポートフォリオで永久コレクションとした作品を展示。そのほか、K・MoPA ならではの視点とテーマで写真の魅力や楽しさを伝える収蔵作品展や、人・自然・宇宙をテーマにした企画展を開催しています。

2008 年度は、プラチナ・プリントの第一人者、井津建郎氏の個展「ブータン 内なる聖地」を開催しました。

プラチナ・プリントは写真の引き伸ばしができません。井津さんは世界の石造遺跡を撮影していますが、4×5 では撮り切れないとカメラとフィルムを特注しました。フィルム・サイズは 14×20 インチ(35cm×50 cm)で、機材の総重量は 130kg にもなるそうです。

井津さんの個展は今回で 3 回目です。今後も現代作家のプラチナ・プリントを紹介してゆきたいと思っています。

企画展にあわせて、ワークショップも開催されています。プラチナ・プリントや、ピンホールカメラのワークショップ、また地の利を生かした野外観察・撮影会や、星の観測など。写真と親しみ、楽しさを膨らます普及活動を行っています。年間の来館者数は約 1 万人です。

ミュージアムは写真の素晴らしさを発信し、写真作品をまもる蚕の「まゆ」のようでありたい...と設立当初から考えられていました。

そのため、所蔵作品の長期保存は K・MoPA にとって重要な課題として位置づけられ、建物の設計段階から展示室、収蔵庫に関して検討が重ねられました。

(2 へつづく)



井津建郎個展「ブータン 内なる聖地」  
2008 年 6 月 28 日～2009 年 1 月 25 日  
25 年にわたり石造遺跡を撮り続けてきた井津建郎が、初めてブータンの「人びと」と、人の「心の中にある聖地」を捉えた新作 73 点を展示。



井津建郎  
「Druk #323 パロ・ゾン仮面の僧」  
パロ、ブータン 2006 (C) IZU Kenro

画像の無断転載を禁じます。

清里フォトアートミュージアム (K・MoPA) 2/3 写真の収蔵環境

**K・MoPAの展示・収蔵環境～温湿度**

写真の保存環境で重要なのは適切な温度と湿度を保つこと、酸やアルカリに弱いため中性環境を維持すること、です。

K・MoPAの建物が完成したのは95年6月。2つの展示室と前室つき収蔵庫を備えています。標高1000mに位置し、年間の外気温・湿度変化が激しく、夏は30℃、冬は-10℃、夏の相対湿度は高いときには90%になります。

収蔵庫の温湿度は、JISやISOの規定\*と装置の条件などにより、通年で20℃、50%RHと決めました。温湿度センサーを各室に設置し計測しています。竣工後、6ヶ月で安定が得られました。

展示室は20～25℃で管理していますが、扉がないため季節・天候によって応急的対応をしています。湿度の調整は空調設備の関係で難しく、春秋期30～50%RH、夏期50～60%RH、冬期20～40%RHで推移しています。




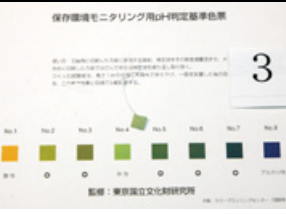
**中性環境にするために**

また、新設の建物躯体から出るアルカリ性ガス、酸性ガスを除去する必要がありました。収蔵庫・前室の床・壁面・棚にガスを吸着するダンボール紙を敷き詰めました。最初の2年は空気循環系にアルカリと酸性ガスの吸着フィルターをつけて環境モニター\*\*を計測しましたが、アルカリ側・酸性側の変動の繰り返しを経て約3年で中性環境になり、作品を収蔵できました。

写真の保存について詳しくは  
弊社HP デジタルもんじょ箱・保護紙入門  
[「中性紙だったら何でもよい?」](#)  
をごらんください。

\*現像処理済み写真印画の長期保存を目的とする温湿度条件  
黒白印画:15～20℃  
カラープリント:20℃以下  
相対湿度:30～50% が好ましいとされる。  
また、温湿度変動は最小にすることが必要で、1日の周期的温度変動は4℃以内とされる。

\*\*保存環境モニタリングシステム  
独立行政法人 文化財研究所・東京文化財研究所監修  
保存環境の簡易計測システムで、コンクリートが放出するアルカリ性ガスあるいは木材から放出される酸性ガスによる空気汚染の検出に有効。

|   |   |
|---|---|
| <b>環境モニタリングの試験紙をつくる</b>   |   |
|  |  |
| 10mm角のろ紙に検定液を含ませる   | 余分な検定液を取り除く   |
| <b>試験紙をつくる</b>  |   |
|  |  |
| 高さ1.5mの位置につり下げ一昼夜放置   | 基準色票と試験紙の色を比較   |

現在も月に1度収蔵庫と展示室で環境モニタリングを行っています。基準色票は中性を示しています(左が酸性、右がアルカリ性)。

## 収蔵設備と方法

収蔵・展示する場合、材質が写真に影響を与えないよう、K・MoPA では展示室および収蔵庫の内装・照明・棚・包材・フレームなどに写真活性化試験\* (PAT) に適合したものを採用しています。

\* 写真活性化試験(PAT= Photographic Activity Test) 写真の包材や接着剤が、写真画像の濃度に与える影響、汚染の発生をシミュレートし、適否を判定します。



写真展示室

- ・額縁のフレームは作品によってアルミ製、木製の使い分けをしている。  
(いずれも美術館仕様の品質の高い製品)
- ・ガラスは、巡回展や大型作品向けに「UVカットの低反射アクリル」を、比較的小さな作品は、「UVカットの低反射ガラス」を使っている。



クリーンルーム用の ULPA フィルタ  
つきの掃除機で清掃している。

ULPA フィルタ: 粒径が 0.1 μm 以下の粒子をも捕獲するフィルタ。HEPA フィルタよりも能力が高く半導体工場や医療機関で使われている。

### 収蔵庫

|  |  |
|--|--|
|   |   |
| 内装・棚・照明など PAT に適合  | 落下防止の柵を棚に後付けした   |
| 中性紙 (PAT に適合) の保存用品で保護   |  |
|  |  |
| ストレージボックスとブックマットで小環境をつくり写真を保存  | 無酸のグラシン紙を間紙として用いている  |

作品を保護するブックマットは全て田村氏の制作。PAT に適合したマットボードを用い、作品にあわせて窓を切りセットし保存します。展示をする場合は、ブックマットごと額に入れるため作品の物理的な損傷を防ぐことができます。

## 収蔵・展示環境についての課題

K・MoPA の収蔵・展示環境についての課題を伺いました。

当館の立地では排ガス問題はありませんが、昆虫が侵入してくることがあります。写真への影響からくん蒸ができませんので、次の対策を行っています。

- ・目視による害虫の発見、駆除
- ・微小塵埃吸入掃除機による入念な清掃
- ・搬入口・収蔵庫前室に昇華型駆虫剤を置く
- ・虫の発見・捕獲・処理を記録

(3へつづく)

清里フォトアートミュージアム(K・MoPA) 3/3 応募から始まる作品の保存~ヤング・ポートフォリオ

写真を後世に伝えるために

K・MoPAの重要な理念であり活動の1つ、ヤング・ポートフォリオでは若手作家の作品を購入し、永久コレクションとします。作品は、保存環境と方法に最善の方策を採った収蔵庫で、保存されます。

初期作品というのは、限りないエネルギーを秘めています。収蔵することによって当館は、その作品の、作家のいわば「心のふるさと」になります。作品を購入した作家をレセプションに招待し、「作品永久保存証書」を渡します。


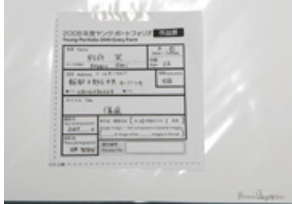


そのため、応募の段階から「作品の保存」に関する意識が求められています。プリント写真は、「もっとも脆弱な紙資料の一つ」といわれるほどデリケートで取り扱いに注意を要するからです。

長期保存が可能な技法および素材であることを条件にしています。募集要項に応募規定として作品の送付方法を記載しています。不思議なもので、梱包の方法で、ある程度作品のクオリティがわかります。それは自分の作品を介して他者とコミュニケーションをとると意識の部分で一致するからかもしれません。



田村泰男氏

ヤング・ポートフォリオの募集要項は  
K・MoPAのHPをご覧ください。  
<http://www.kmopa.com/>

|   |   |
|---|---|
| <p>作品は裏か表に必ずサインし、1点ずつ透明の袋(ポリプロピレンなど)に入れる。</p>                                       | <p>楷書で記入した作品票を袋の裏面に貼る。</p>  |
|  |  |
| <p>作品が折れないように厚紙に挟む。<br/>(見本ではズレない・作品を外しやすいよう四隅にコーナーをつけています)</p>                     | <p>適度な包装をして送付。<br/>(見本ではダンボールとガムテープで梱包しています)</p>                                    |
|  |  |

\* 上記は梱包の例です。応募にはこの他にも必要な事項がありますので、必ず募集要項を確認してください

## 今後の課題

田村氏に K・MoPA の今後の課題についてたずねました。

デジタル技術の急速な進展とインクジェットプリントが受け入れの課題です。保存の観点からすると、技術的に不安定ながら見た目ではわかりませんので作家とのやりとりを信用するしかありません。インクジェットの場合は、画像堅牢度の高い顔料インクを使うよう指定しています。

また、ヤング・ポートフォリオは毎年実施しているので、収蔵スペースが一杯になりそうです。

現在は腹 8 分目といったところでしょうか（笑）

K・MoPA の印象は、写真が好きで写真がたのしくて仕方がないひとたちが作っている美術館、でした。それは館長の細江氏が、「なんでも自分たちでやってみる」という方針をお持ちだからこそその手作り感かもしれません。ありがとうございました。

（取材日 2008 年 12 月 17 日 於 清里フォトアートミュージアム）

### 取材協力

主任学芸員 山地裕子氏

広報主任 小川直美氏

清里フォトアートミュージアム

〒407-0301

山梨県北杜市高根町清里 3545

(有)レイテック 立川宏司氏

掲載画像の無断転載を禁じます。